

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立北野保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触

<テーマの設定理由>

草花や砂・水に触れることで、「これなんだろう?」と興味をもつ姿が見られていたことから、様々な素材に触れることで、子どもたちの五感を刺激し、好奇心や探求心を育てていきたい。

2. 活動スケジュール

- | |
|--|
| <p>【Ⅰ期】様々な素材を活用し、感触遊びを存分に経験する。</p> <p>【Ⅱ期】感触遊び通して、汲む、注ぐ、溜める、流れる、浮く、沈む、色や形の変化、温度などを実感し、様々な素材の不思議さに触れる経験を重ねる。</p> <p>【Ⅲ期】変化する様子を見たい、知りたい、試したいという意欲が高まり、探究活動が盛んになる。</p> |
|--|

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

小麦粉・片栗粉・寒天・洗濯糊・はるさめ・高野豆腐・砂場セット・ウォーターテーブル・マラカス

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

夏の時期を中心に、様々な素材に触れながら感触遊びを楽しんだ。子どもたちは「これなんだろう？」という興味から遊びが始まり、粉の変化や寒天の感触、水との組み合わせによる違いなど、自ら発見する姿が多く見られた。夢中になって手を伸ばし、比べたり混ぜたりしながら、素材の心地よさや変化するおもしろさを感じ取っていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

夏の時期に、小麦粉・片栗粉・寒天・洗濯糊・はるさめ・高野豆腐など様々な素材を用いた感触遊びを行った。「これなんだろう？」と興味を示し、さらさら・ぷるぷる・どろどろと変化する感触に夢中で触れ、混ぜたりつぶしたりしながら素材の違いに気付く姿が見られた。ウォーターテーブルや砂場セットを使うことで、流れる・沈むなどの発見も広がった。保育者は子どもの気づきを受け止め、「どうなるかな？」と問いかけたり道具を用意したりすることで、探究が深まるよう関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもが新しい刺激に対して示す反応の幅広さに改めて気づいた。興味を持って積極的に触れる姿だけでなく、未知の感触に不安を抱き、距離をとりながら慎重に関わろうとする姿も、子どもなりの主体的な参加であることが分かった。保育者が「触ってみよう」ではなく、観察から入れる場所や少量から試せる環境を整えることで、子どもは自分のペースで安心して探索を広げていくことを実感した。